

## 武漢事務所週刊ニュース 15号 (2012年7月21日~7月27日)

### 武漢に最も長い地下スタイルショッピング街がお目見え

7月23日 長江ネット

昨日、漢正街商業エリアの大道が地下スタイルショッピング街に正式に“変身”した。長さは3.3kmあり、武漢で最も長い地下ショッピング街となった。

地下スタイルショッピング街の全体はEの字の形をしており、漢正街の「一軸四エリア一帯」である、中山大道、利濟南路、多福路、友誼南路の繁華街の地下にできており、総面積は7万平方メートルとなっている。

今年の9月下旬には全長1kmにわたる中山大道地下街が完成し、飲食店のほかにブランドショップも設置される予定である。ショッピングセンターにはWi-Fiが設置されており、レジカウンターなどにある2次元コードをスマートフォンで読み込むと店の情報や位置情報を手に入れることができる。

### 3年後に武漢は4番目に大きな空港を持つ都市へ

7月27日 長江日報

7月26日、湖北省武漢市の天河空港第三ターミナルが正式に着工し、2015年に完成する予定である。

天河空港では第三期拡張工事が緊要となっている。関係者によると、原因は2つある。一つは天河空港が現有する規模が、国際大都市が必要とする規模に達していないことである。武漢は国家の中心都市として、航空業の発展により、さらに対外への開放を実現していく必要がある。2つ目には天河空港の実際の利用者数が利用可能人数に達していることである。去年のデータを見てみると、今年の天河空港の利用者数は1300万人の利用可能人数を超える見込みである。

天河空港三期工事は総投資額159.59億元(=2,074.67億円:1円=13円で計算)設計目標では2020年までに利用可能人数を3,500万人、輸送料44万トンとしており、これは現在の3倍以上にあたる。第三ターミナルの利用開始後は国際的ターミナルに位置づけられ、全ての国際線がこのターミナルを利用することとなる。

2008年に第2ターミナルが正式に利用されてから、天河空港は国内中部最大かつ最も先進的な空港となっている。第三ターミナル完成後、武漢は中部最大のハブ空港を有することになるのみならず、4番目に大きい空港を有する都市となる。

武漢市交通運輸委員会によると、天河空港第三ターミナルの建設により、天河空港は総合交通ハブ機能を有し、都市間鉄道、シティレール、長距離バス、市内バスなどの交通手段を効果的に整備し、スムーズな乗り換えを実現させることができる。

## 第十三回機械電子博覧会が9月に開幕 ロボットのパフォーマンスを堪能

7月20日 長江ネット

第十三回機械電子博覧会の開幕までまだ2ヶ月あるが、出店企業はすでに博覧会の熱を感じる事ができる。7月19日午後、主催者は“機械電子博覧会”の主会場となる武漢国際博覧センターで説明会を開き出店企業の質疑に応じた。

説明会では、“機械電子博覧会”主催者である中国機電産品輸出入商会及び(香港) 訊通展覧会社が説明会に参加した出店企業に今回の博覧会の準備状況及び一連の優遇施策を説明した。組織委員会によると、各方面から出店企業への協力があり、機械電子博覧会をプラットフォームとしてビジネスチャンスを共有し、ともに発展していく狙いがあるとのことである。

今回の機械電子博覧会は9月23日に開幕し、4日間開催される。「低炭素機器、地球全体で使う」をテーマに販売ブース、商品取引、技術交流、経済貿易協力、国際間取引の形式をとり、今回の機械電子博覧会の国際化、専門化及びブランド化の特色を実現している。

中西部で最大の工業製造装備博覧会であり、一般の市民にとっては専門的ではあるが、期間中は、経済貿易活動及び技術交流だけではなく、ロボットによる開幕パフォーマンスや業界の専門的な人材の募集会なども行っており、市民にとっても親しみやすいものとなっている。